

## 令和7年度 徳島県立博物館協議会・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会 議事録

### 1 日時

令和7年10月10日（金）午後2時～午後4時

### 2 場所

徳島県立博物館 講座室

### 3 出席委員（50音順・敬称略）

生駒 佳也（徳島県立阿南光高等学校非常勤講師）

瀬戸 恵深（株式会社エフエムびざん放送部ディレクター）

徳原 香（株式会社あわわめぐる、事業部編集長）

西 記代子（四国大学文学部講師）〈副会長〉

平川 恵実子（鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授）

福井 春菜（徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター自然観察指導員）

町田 哲（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授）〈会長〉

宮岡 真央子（福岡大学人文学部教授）

森脇 佳代子（阿南市立羽ノ浦小学校PTA）

※欠席1名

### 4 次第

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 委員紹介

(4) 議事

①令和6年度事業実施状況について（博物館）

②令和7年度予算及び事業概要について（博物館）

③令和6年度事業実施状況について（鳥居龍蔵記念博物館）

④令和7年度予算及び事業概要について（鳥居龍蔵記念博物館）

⑤その他

### 5 議事の概要

①令和6年度事業実施状況について（博物館）

②令和7年度予算及び事業概要について（博物館） 質疑応答

#### 委員

昨年度の協議会において指摘した授乳室の給湯設備の表示について確認したところ、利用者に分かりやすい形で迅速に改善がなされていた。小さな点ではあるが、来館者サービスの向上に直結する重要な対応であり、利用者目線に立った改善として評価したい。

#### 事務局

表示の改善に加え、授乳室の利便性向上を目的として簡易な給湯設備を新たに導入し、来館者が安心して利用できる環境整備に努めた。

#### 委員

日頃より SNS による情報発信を頻繁に閲覧しているが、更新頻度も高く内容も工夫されており、博物館の活動状況がよく伝わっている。特に YouTube で公開されている「蜘蛛の研究」や「西祖谷の神代踊」の動画は興味深く、来館の動機づけになるだけでなく、学校教育の教材としても活用可能な有用な資料であると感じた。

#### 委員

SNS の積極的な運用は広報の観点からも大変有効であり、高く評価できる取組である。さらに、学生や友の会会員など外部の協力者と連携してコンテンツを制作することで、多様な視点を取り入れた発信が可能となり、より一層の充実が図られるのではないかと感じる。

#### 事務局

限られた人員の中で効果的な情報発信に努めており、今後も動画や画像等を活用した分かりやすい発信を継続したい。

#### 委員

「博物館ニュース」の配布先や配布方法の現状について詳しく知りたい。特に子どもへの周知が重要であり、学校現場への届き方も含めて工夫の余地があるのではないかと感じる。

また、「こどもゆさん」の参加年齢層の実態、大阪・関西万博の影響の有無、外国人来館者の動向や外国語リーフレットの活用状況についても併せて説明を求めたい。

#### 事務局

博物館ニュースは県内の図書館、公民館、学校等に配布しているほかホームページでも公開している。また、教員用端末にもデータ送信し教育現場での活用を図っている。

「こどもゆさん」は未就学児から小学校低学年の参加が中心である。万博の影響については現時点で明確な増減は確認できていない。外国人来館者には外国語リーフレットを配布しており、企画展「ポケモン化石博物館」では一定数の外国人観覧も見受けられた。

#### 委員

香港や韓国に徳島阿波おどり空港からの直行便が運航している。これらの影響を評価するため、またどのような言語でリーフレットを提供する必要があるのかを検討するためにも、どの国からの来館が多いかを把握していく必要があるだろう。

#### 事務局

団体での外国人来館者については当該情報の収集に努めていく。一方で、外国人かどうかの判断が難しい場合もあるため、少人数や単独の外国人来館者については、博物館常設展示室にて定期的に実施されるアンケート等で情報収集していきたい。

#### 委員

人文分野の展示であっても子どもが関心を持ちやすいよう工夫されており理解しやすい。また、化石発掘体験は体験的学習の観点から非常に有意義であり、展示と連動した学習機会として評価できる。今後も体験型事業を継続し、来館者の主体的な学びを促進してほしい。また、ポケモン化石博物館は新規層や家族連れの来館促進に大きく寄与する企画であると考えられる。

#### 事務局

展示については、子どもから寄せられた意見や反応も参考にしながら改善を重ねている。また、化石発掘体験のような体験的行事などとおして、より一層博物館に興味関心を持っていただけるよう努めている。「ポケモン化石博物館」についても、これまで来館の少なかった層の来館につながっており、博物館を知ってもらえる良いきっかけとなった。

#### 委員

企画展「トクシマ恐竜展 2024」について、どのような広報手法を用いたのか？

#### 事務局

当該企画展は新聞社との共催事業として実施し、県内では新聞広告を中心に広報を行った。県外に対しては SNS を活用し、閲覧データを分析した上で反応の多い香川県への重点的な情報発信を行った。

③令和6年度事業実施状況について（鳥居龍蔵記念博物館）

④令和7年度予算及び事業概要について（鳥居龍蔵記念博物館） 質疑応答

委員

企画展や特別陳列において、SNSの活用や比較文化的な視点が取り入れられており、展示内容に独自性と深みを感じられる。また、これまで構築してきた研究ネットワークを博物館活動に活かしている点も評価でき、学術的基盤に支えられた事業展開がなされていると考える。

事務局

今後も研究成果を展示や普及事業に反映させ、学術性と分かりやすさの両立を図った活動を継続していきたい。関係機関との連携も引き続き強化していく方針である。

委員

「全国高校生歴史文化フォーラム」については安定した応募がある一方、県内向けの「徳島歴史文化フォーラム」は応募が少ない状況にある。修学旅行を含め、学校との連携強化や教員とのネットワーク構築を進めることで参加者の裾野が広がるのではないかと考える。

また、社会教育士制度との関連づけを行うことも有効であると考えている。

事務局

県内からの応募増加は課題と認識しており、広報方法の見直しや教員への直接的な周知に努めている。学校訪問等も実施しているが、さらなる連携強化が必要である。

また、社会教育士との連携についても、今後の事業展開の中で検討を継続していきたい。

委員

県内の若い世代において鳥居龍蔵の認知度が十分とは言えない状況にある。児童生徒が関心を持てるような展示や普及事業の工夫を一層進め、郷土の偉人としての理解を深める機会を増やす必要があるのではないかと考える。

事務局

子ども向けイベントや解説の工夫など、若年層への関心喚起を意識した取組を行っているが、なお十分とは言えない面もある。今後も展示内容や普及活動の在り方を検討し、より親しみやすい形で鳥居龍蔵の業績を伝えていきたい。

#### 委員

国立台湾史前文化博物館との国際共同研究について、その最終的な成果や到達点をどのように想定しているのか説明を求めたい。研究成果の公開方法も含めて展望を伺いたい。

#### 事務局

現時点では、令和 8 年度に台湾での企画展を開催し、続いて令和 9 年度に日本国内での巡回展を予定している。これらの展示を一つの成果公開の場と位置づけており、その後も共同研究自体は継続し、長期的な学術交流へ発展させたい。